

ぶどう新梢伸長抑制剤マレイン酸ヒドラジド液剤の使用法

園試大迫試験地

1. 背景とねらい

ぶどうの遅伸びは貯蔵養分を消耗するため、耐寒性の低下、発芽の不揃いや遅延など次年度に及ぼす影響が大きい。これを防止するため、慣行技術として遅伸びした枝の摘心を行っているが、天候や樹勢によっては再伸長することがある。

その点、平成元年にぶどうに適用拡大登録された新梢伸長抑制剤「エルノー」は、確実かつ省力的に遅伸びを防止できるが、使用時期等に留意すべき点が多いので、使用方法について指導上の参考に供する。

2. 技術の内容

1) 薬剤名 マレイン酸ヒドラジド液剤

2) 商品名 エルノー

3) 有効成分 マレイン酸ヒドラジドコリン塩 39.0%

4) 使用倍率(使用量)等

200倍液(200リットル/10a)を立木全面散布する。

5) 使用時期

(1) キャンベル等では果実、枝の登熟に必要な葉枚数確保時から収穫21日前まで又は収穫後とする。

(2) 大粒種等着色後も果粒肥大の認められる品種は、果実、枝の登熟に必要な葉枚数を確保し、かつ着色始期以降収穫21日前まで又は収穫後とする。

(3) いずれも1回散布とし、繰り返し使用しない。

6) 効果の発現

散布後約1週間で新梢先端が枯死脱落し、以後伸長が停止する。

7) 散布効果

新梢の遅伸びを防止することにより、養分の余分な消費が抑えられるため、貯蔵養分増加や芽の充実が図られる。また果実品質(糖度、着色)の向上も期待できる。

8) 適応地域 県下全域

3. 指導上の留意点

1) 遅伸びは栽培条件(土壌、気象、栽培管理等)によって誘発される場合が多いので、これらの解決が前提であり、エルノーの使用はやむを得ない場合とする。

2) 早い時期に散布すると生育を抑制し、熟期遅延、減収(果粒肥大抑制)などを招くので、使用時期は厳守する。

4. 参考文献・資料

昭和61年度～平成2年度 岩手園試果樹試験成績書

5. 試験成績の概要

表1 キャンベルの生育・果実品質に及ぼすC-MH散布の影響

区名	新梢長 (cm)				果実品質			
	8/12	8/21	8/29	9/25	房重 (g)	粒重 (g)	糖度 (Brix%)	着色良房率 (%)
C-MH250倍	207	209	209	209	338	6.3	16.1	96.4
C-MH200倍	204	208	208	208	388	5.9	16.1	81.0
C-MH150倍	249	252	252	252	437	6.0	16.3	100.0
無処理	213	222	226	228	378	5.8	15.1	68.7

注1)処理日は1987年8月13日。 2)果実品質調査は1987年10月6日。
3)着色良房率は着色指数(日園連巨峰用カーチャート)10以上の果房数割合。

表2 紅伊豆の生育に及ぼすC-MH散布の影響

区名	新梢長 (cm)				翌年の発芽状況		
	8/3	8/15	8/25	9/5	全芽数 (個)	発芽率 (%)	発芽梢長 (cm)
C-MH250倍	220	214	214	214	144	91.0	13.8
C-MH150倍	272	273	273	273	78	87.2	10.9
無処理	261	280	316	334	162	56.8	6.6

注1)処理日は1989年8月3日。
2)発芽状況調査は1990年5月25日(発芽日はいずれも5月1日)。

表3 紅伊豆の果実品質に及ぼすC-MH散布の影響

区名	房重 (g)	粒重 (g)	糖度 (Brix%)	酸 (g/100ml)	着色良房率 (%)
C-MH250倍	429	12.1	15.3	0.68	91.8
C-MH150倍	347	11.1	14.7	0.68	64.3
無処理	342	11.8	14.6	0.77	60.7

注1)1989年10月3日調査。
2)着色良房率は日本園芸植物標準色票No0110、0108、0106に該当する果房数の割合。